



被爆 70 周年の取組

平成 27 年 7 月

広 島 市

目 次

被爆 70 周年の取組について	P 1
-----------------	-----

記念事業 P 4 ~ P33

記念事業一覧表	P 4
1 平和の発信力の強化	P 7
2 被爆者援護と次世代への平和への思いの継承	P 14
3 スポーツ・文化芸術による平和の体現	P 20
4 復興したまちの魅力の再発見と更なる発展	P 30

まちづくり先導事業 P36 ~ P42

都市構造と三つのエリアの設定、まちづくりの戦略	P 36
1 デルタ市街地でのまちづくりの展開	P 37
2 デルタ周辺部でのまちづくりの展開	P 40
3 中山間地・島しょ部でのまちづくりの展開	P 41
4 全市域でのまちづくりの展開	P 42

被爆 70 周年の取組について

1 趣旨

広島市は、世界に誇れる「まち」の実現に向けて、「活力とにぎわい」、「ワーク・ライフ・バランス」、「平和への思いの共有」という三つの要素の展開によるまちづくりを進めている。その中で、平成 27 年(2015 年)、被爆 70 周年という節目の年を迎えた。

被爆 70 周年は、原爆死没者の慰霊と被爆者の援護、被爆体験の継承という被爆都市ヒロシマの役割を再確認し、決意を新たに「平和への思いの共有」を体現する年とするとともに、これまでのまちづくりの成果を踏まえ、まちづくりの新たな一步を踏み出す年と位置付け、広島の将来に向けた取組を行う。

2 基本方針

趣旨を具現するため、以下の四つに力点をおいて取り組む。

○ 平和都市としての求心力の向上

原爆死没者に対し哀悼の意を表すこと及び被爆者に対する援護を原点としつつ、世界中の人が訪れてみたいと感じ、訪れた人が、被爆の実相に触れ、被爆者の体験や平和への思いを共有するとともに、四季を通じて開催される多彩な行事や街並み、暮らしから、「平和の尊さ」を体感することができる「まち」を目指す。

○ ヒト・モノ・カネを呼び込む都市の魅力の創造

ヒト・モノ・カネを強力かつ持続的に呼び込むことができるよう、都市機能を戦略的に配置するとともに、地域の特性や資源を生かし、新しい魅力を発信する「まち」を目指す。

○ 心通い合う地域コミュニティの形成

自助・共助の精神や幅広い主体の連携・協働の下に、市民が自らの住む地域に愛着と誇りを持ちながら、充実した生活を送り、将来にわたって安心して暮らせる「まち」を目指す。

○ 市民と行政による新たな価値の創出

地方分権時代にふさわしい独創性・推進力ある行政を確立し、市民の力を最大限に生かすことによって、先進的なチャレンジを行い、新たな価値を生み出す「まち」を目指す。

3 取組内容

(1) 記念事業

「平和都市としての求心力の向上」を目的に、被爆 70 周年を記念する事業を次の四つのテーマに沿って実施する。

- ・ 平和の発信力の強化
- ・ 被爆者援護と次世代への平和への思いの継承
- ・ スポーツ・文化芸術による平和の体現
- ・ 復興したまちの魅力の再発見と更なる発展

(2) まちづくり先導事業

被爆 70 周年を契機に、被爆 100 周年を見据えて目指すべきまちの実現に資する新たな事業等を「まちづくり先導事業」として位置付けて取り組む。

記念事業

記念事業一覧表

区 分	事 業 名	頁
1 平和の発信力の強化		
1	「平和と安全保障を考える事典」の編さん	7
2	日本平和学会春季研究大会・光の肖像展の開催	7
3	ヒロシマ 70 平和セミナーの開催	8
4	「広島 P 2 ウォーカー」推進事業の実施	8
5	平和記念式典の開催	9
6	広島・長崎連携事業「原爆・平和を読み語りつぐ事業」の実施	9
7	平和をテーマにした映画の特集上映	10
8	国連軍縮会議の開催	10
9	折り鶴ポストカードの配付	11
10	旧日本銀行広島支店での平和記念資料館収蔵品の展示等	11
11	平和構築に向けた核軍縮不拡散のためのワークショップの開催	12
12	青少年国際平和未来会議の開催	12
13	中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」の実施	13
2 被爆者援護と次世代への平和への思いの継承		
14	被爆 70 年史編修発行事業の実施	14
15	「子どもたちへ原爆を語りつぐ本ー総集版・2015ー」の発行関連事業の実施	14
16	被爆関連映像資料のアーカイブ化	15
17	被爆体験記集の作成・配付	15
18	平和記念式典への在外被爆者及び遺族の招へい	16
19	被爆者との交流促進等事業の実施	16
20	原爆死没者慰霊式典の記録（冊子出版）	17
21	ヒロシマ被爆二世医師会議被爆体験継承等事業の実施	17
22	平和記念公園レストハウスの改修	18
23	『「命の水」～ひろしま水道物語～』による被爆体験の伝承	18
24	第 23 回世界スカウトジャンボリー（広島ピースプログラム）の開催支援	19

区 分	事 業 名	頁
3 スポーツ・文化芸術による平和の体現		
25	被爆地広島での「エスキーテニス全国大会」の開催	20
26	ひろしま国際平和マラソンの開催	20
27	広島交響楽団特別事業「摂氏 4000 度からの未来」プロジェクトの実施	21
28	広島の底力！被爆 70 周年復興大写真展の開催	21
29	国連創立 70 周年記念未来につなぐヒロシマ平和コンサートの開催	22
30	日米の懸け橋～Umi Garrett～平和の継承コンサートの開催	22
31	現代美術館特別展の開催	23
32	博物館資料を活用した企画展示の開催	23
33	バレエコンサート&眠れる森の美女全幕の開催	24
34	人の心に平和のとりでを築くコンサートの開催	24
35	2015 こどもコーラスフェスティバル in ひろしまの開催	25
36	I PRAY 2015 の開催	25
37	平和の夕べコンサートの開催	26
38	国連合唱団コンサートの開催	26
39	平和のタンゴの開催	27
40	平和記念公園 上田宗箇流茶会の開催	27
41	ヒロシマ・アート・ドキュメント 2015 の開催	28
42	障害者と広島交響楽団とのジョイントコンサート（マーガレットコンサート）の開催	28
43	障害者ピースアート事業の実施	29

区 分	事 業 名	頁
4	復興したまちの魅力の再発見と更なる発展	
44	「広島通り ^{とお} 御祭礼 ^{ごさいれい} 神輿 ^{いみこし} 行事」の復活・継承	30
45	70年目の広島の旅の実施	30
46	復興の都市計画についての企画展の開催	31
47	広島 の 誇りある景観まちづくりプロジェクトの実施	31
48	全国花のまちづくり広島大会の開催	32
49	平和を象徴する緑の保存・継承事業の実施	32
50	猿猴橋復元事業の実施	33

1 平和の発信力の強化

1 「平和と安全保障を考える事典」の編さん	
目的	平和に関する事典は、昭和 60 年に（財）広島平和文化センターによって編さんされ、平成 3 年に新訂版が刊行された「平和事典」のみであることから、その後の国際情勢の変化や平和研究の蓄積を踏まえて、平和に関する情報を広く研究者や市民に提供するため、新たに「平和と安全保障を考える事典」を編さんする。
内容	これまでの我が国の平和研究の蓄積を基に、平和学理論・平和政策、平和の概念、広島・長崎の被爆と核災害、核政策史、福島第一原子力発電所の事故など、最新の問題も含めた平和研究のための重要かつ基礎文献となる事典を編さんする。 刊行後は、幅広く PR することにより、広島の平和研究の成果を国内外に発信する。
備考	平成 25～26 年度 執筆、編集会議、出版業者との調整 平成 27 年 12 月末（予定） 刊行
担当局・課	企画総務局企画調整部企画調整課（広島市立大学広島平和研究所）

2 日本平和学会春季研究大会・光の肖像展の開催	
目的	日本平和学会の春季研究大会を広島で開催し、広島平和研究所に蓄積された平和研究の成果を披露することにより、全国の平和研究学界における本市の求心力を高め、被爆都市としての平和発信機能の再認識・再構築を図る。 また、肖像画という芸術作品を通して、学会への参加者や一般来場者に被爆者の思いや願いを共有してもらうため、「光の肖像展」を合同開催する。
内容	1 日本平和学会春季研究大会（2日間） 1日目 開会、部会、自由論題部会、分科会、韓国平和学会との共同セッション、総会、懇親会 2日目 部会、分科会、韓国平和学会との共同セッション、ワークショップ、戦後 70 年記念講演、アートパフォーマンス、閉会 2 光の肖像展 広島市立大学芸術学部油絵専攻の教員、学生が描いた広島の被爆者やその二世・三世の肖像画を展示
備考	1 日本平和学会春季研究大会 平成 25～26 年度 日本平和学会との調整 平成 27 年 7 月 18 日（土）、19 日（日）開催（会場：JMS アステールプラザ） 2 光の肖像展 開催時期 平成 27 年 7 月 15 日（水）～20 日（月・祝） 会場 JMS アステールプラザ内市民ギャラリー
担当局・課	企画総務局企画調整部企画調整課（広島市立大学広島平和研究所、同大学芸術学部）

3 ヒロシマ 70 平和セミナーの開催	
目的	平和研究に関心のある若者を対象として、平和問題を伝えていくマスメディア関係者、平和行政を進めていく公務員、将来にわたって平和問題に取り組んでいく大学院生が広島に集い、それぞれの役割の重要性を認識し進むべき方向について学び考えてもらうため、「ヒロシマ 70 平和セミナー」を開催する。
内容	国内外の第一級の専門家を迎えて、平和と核問題の歴史と現状分析に関する 3 日間の集中講義を行うとともに、参加者による意見交換を行う。 また、講義内容を一冊の本としてまとめる。 【講義科目】 1 日目 『どれだけ平和になったのか』（過去を振り返る） 基調講演「国際平和と国際協力」 (1) 国際立憲主義と平和の構想 (2) 国際連合の平和 (3) 国際制度と平和 2 日目 『今、何が問題なのか』（現状を分析する） (1) 核兵器の違法性 (2) 核兵器の現状と被爆体験 (3) 東アジア紛争と海洋法 (4) 予防外交論の現状と課題 3 日目 『将来を見据えて』（平和の創造を展望する） (1) グローバルガヴァナンスの行方 (2) 日中関係の現状と行方 (3) 日韓関係の現状と行方 (4) 東アジア共同体創造の現状と行方 (5) 日本の安全保障とグローバル安全保障
備考	開催時期 平成 27 年 9 月 4 日（金）～ 6 日（日） 会場 広島市立大学サテライトキャンパス（大手町平和ビル）
担当局・課	企画総務局企画調整部企画調整課（広島市立大学広島平和研究所）

4 「広島 P 2 ウォーカー」推進事業の実施	
目的	平和記念公園及びその周辺地域を訪れる国内外の方に、平和に関する情報や観光情報を提供している「広島 P 2 (ピーツー)ウォーカー※ ¹ 」について、最新技術を活用して内容を充実することにより、平和都市広島の発信力の強化を図る。 ※ ¹ 「Peace (平和)」を学び、「Park (公園)」や広島市の街をもっと深く知りながら楽しく歩けるようにとの思いで、携帯電話やスマートフォン向けに平和等に関する情報を提供している。
内容	<ul style="list-style-type: none"> AR (Augmented Reality : 拡張現実) 技術※²を活用した記念碑の説明箇所を増加 コンテンツの英語表記対応数を増加 若年層向けの動画や静止画のコンテンツを新たに追加 (学校等で作成した平和学習動画など) AR 技術を活用して、被爆前後の広島市の街並み等を再現するコンテンツを新たに追加 ホームページやアプリの画面構成の全面的な見直しを実施 <p>※² スマートフォンやタブレット端末をかざすと、何もないはずの場所にあたかも本当に存在するかのごとく、ディスプレイ上に関連する画像や説明文を表示させる技術。</p>
備考	平成 26 年度 追加コンテンツ作成及び公開 平成 27 年 7 月 ホームページ及びアプリのリニューアル公開
担当局・課	企画総務局情報政策部情報政策課

5 平和記念式典の開催	
目 的	被爆 70 周年に当たる平和記念式典では、より一層「迎える平和」を推進するため、来賓の充実と市民参画の推進、被爆者の高齢化等に配慮した運営を図り、核兵器廃絶への強い思いを広島から全世界に発信する。
内 容	1 来賓の充実 (1) 平和首長会議のリーダー都市の首長への参列案内 (2) 司法機関の長である最高裁判所長官への参列案内 2 市民参画の推進 (1) 未来を担う青少年の招へい 平和首長会議リーダー都市及び姉妹・友好都市の青少年代表 (2) 在外被爆者等の招へい 在外被爆者代表、在外遺族代表 3 被爆者の高齢化等に配慮した運営 全参列席へのテント設置
備 考	平和記念式典の開催 平成 27 年 8 月 6 日 (木) 全参列席へのテント設置 平成 26 年度 中央参道石張舗装改良 平成 27 年度～ テント設置 (会場全面、合唱団・吹奏楽団)
担当局・課	市民局市民活動推進課

6 広島・長崎連携事業「原爆・平和を読み語りつぐ事業」の実施	
目 的	被爆地である広島市と長崎市の図書館同士が初めて連携し、両市が所蔵する資料の交換展示 (交流特別展) を両市の図書館で開催するとともに、被爆体験継承講座を同時に開催することにより、被爆の実相をより深く伝え、次世代への被爆体験の継承と一層の平和意識の高揚を図る。
内 容	1 交流特別展 広島・長崎両市の市立図書館において、それぞれの展示スペースに「ヒロシマ」、「ナガサキ」を伝えるコーナーを設け、両館及び関係機関が収集・保存してきた被爆に関する資料 (図書、雑誌、写真、図など) を展示し、両市の被爆の実相や、復興の様子を伝える。 また、市立図書館全館で、原爆・平和に関する図書 (広島・長崎関連) の展示・貸出を行う。 2 被爆体験継承講座 広島と長崎の被爆の実相を伝え、被爆体験を次世代へ継承していく講座 (全 3 回) を開催する。
備 考	広島市での実施概要 1 交流特別展「つながる、つたえるヒロシマ・ナガサキ」 開催時期 平成 27 年 7 月 11 日 (土) ～ 8 月 30 日 (日) 会 場 中央図書館 2 階 展示ホール 2 被爆体験継承講座「ヒロシマ・ナガサキを知り、伝える」 開催時期 平成 27 年 7 月 26 日 (日)、8 月 2 日 (日)、7 日 (金) 会 場 中央図書館 3 階 セミナー室
担当局・課	市民局生涯学習課 (中央図書館)

7 平和をテーマにした映画の特集上映	
目的	映像文化ライブラリーにおいて、開館以来収集してきた平和や原爆をテーマにした映画を集中的に上映し、映像を通じて被爆体験を継承し、平和への思いを新たにすることを促進する。
内容	平和や原爆をテーマにした名作映画の上映 上映予定作品（平成 27 年 8 月：14 作品） 「第五福竜丸」、「愛と死の記録」、「私は貝になりたい」、 「日本のいちばん長い日」、「千羽鶴」、「八月の狂詩曲」ほか 8 作品 ※ 詳しい上映作品は、映像文化ライブラリーのホームページ （ http://www.cf.city.hiroshima.jp/eizou/ ）をご覧ください。
備考	実施時期 平成 27 年 6 月～8 月 会場 映像文化ライブラリー 2 階ホール
担当局・課	市民局生涯学習課（映像文化ライブラリー）

8 国連軍縮会議の開催	
目的	国連軍縮会議を本市で開催し、関係機関と連携しながら、同会議参加のために本市を訪れる各国の為政者や政府高官等に核兵器廃絶を願う広島を伝えるための重要なプロセスとする。 また、会議開催の際、平和記念資料館の見学や被爆体験証言の聴講等、被爆の実相を伝えるプログラムを実施するとともに、会議参加者に対し広島を PR する。
内容	1 参加者 世界各国の政府高官、軍縮問題の専門家等 100 名程度 2 内容 「核兵器のない世界」の実現に向けた取組に関するセッション、世界学生平和会議、被爆の実相を伝えるプログラム ほか
備考	開催時期 平成 27 年 8 月 26 日（水）～28 日（金） 場所 グランドプリンスホテル広島、平和記念公園、平和記念資料館、広島国際会議場 国連軍縮会議に先駆けて、8 月 24 日（月）、25 日（火）に、CTBT（包括的核実験禁止条約）の批准を進めるために、政治的地位を有する著名人や国際的に認められた専門家により構成される「賢人グループ会合」が、日本で初めて本市で開催される。
担当局・課	市民局国際平和推進部平和推進課 2020 ビジョン推進担当

9 折り鶴ポストカードの配付	
目的	折り鶴再生紙を使用したポストカードを配付し、平和を願うメッセージの発信に活用してもらうことにより、折り鶴に託された思いの昇華と平和への思いの共有を図る。
内容	折り鶴再生紙を使用したポストカードを、平和記念資料館の入館者に無償配付し、平和を願うメッセージの発信に活用してもらう。
備考	平成 27 年 4 月～ 資料館入館者へのポストカードの配付
担当局・課	市民局国際平和推進部平和推進課被爆体験継承担当

10 旧日本銀行広島支店での平和記念資料館収蔵品の展示等	
目的	平和記念資料館以外の場所で被爆の実相に触れる機会を提供することにより、より多くの人に被爆者の体験や平和への思いを共有してもらう。
内容	<p>1 旧日本銀行広島支店での平和記念資料館収蔵品の展示 平和記念資料館の再整備によって縮小している資料館の展示を補完するため、旧日本銀行広島支店で、被爆資料や「市民が描いた原爆の絵」、米国国立公文書館所蔵写真などの資料館収蔵品の展示を行う。</p> <p>2 市内中心部の平和関連展示施設等の紹介 (1) 市内中心部のマップに平和関連展示施設等を示した印刷物の作成・配付 市内中心部に所在する平和関連の展示施設や被爆建物、被爆樹木等を紹介するため、マップにそれらの概要・巡回ルート等を示した印刷物を、折り鶴再生紙を用いて作成し、配付する。 (2) 「ひろしま地図ナビ」での平和関連展示施設等の紹介 本市ホームページ「ひろしま地図ナビ」を活用し、平和関連の展示施設や被爆建物、被爆樹木等の情報を日本語と英語で掲載する。</p>
備考	平成 27 年 7 月 15 日（水）～おおむね 1 年間(月日未定) 旧日本銀行広島支店での展示 ただし、平成 27 年 9 月 15 日（火）～10 月 6 日（火）及び年末年始(平成 27 年 12 月 29 日（火）～平成 28 年 1 月 3 日（日）)は休止 平成 27 年 8 月～ 市内中心部の平和関連展示施設等の紹介
担当局・課	市民局国際平和推進部平和推進課被爆体験継承担当

11 平和構築に向けた核軍縮不拡散のためのワークショップの開催	
目 的	<p>国連訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所*が主催する、ヒロシマの経験を生かした平和構築に向けた核軍縮不拡散のためのワークショップへの支援を行い、「迎える平和」や国際協力のより一層の推進を図る。</p> <p>※ 開発途上国の経済、社会開発、平和及び安全保障などの分野における政府関係者等に向けた研修等を企画・遂行する国連機関であり、平成 15 年に中四国地方で初の国連機関として本市に開設された。</p>
内 容	<p>東南アジア 5 か国（マレーシア、フィリピン、タイ、インドネシア、ミャンマー）の軍縮を担当している省庁の若手実務者等を集め、世界及び東南アジアにおける核軍縮不拡散の状況を学ぶとともに、核軍縮不拡散に貢献するための具体的な外交交渉スキルを習得するためのワークショップを開催する。</p> <p>1 世界情勢及び地域情勢の把握 現在の核軍縮不拡散に係る世界及び東南アジア地域の状況、世論、課題、展望の把握</p> <p>2 核軍縮不拡散に貢献する交渉スキルの習得 ニーズアセスメント（何が必要であるか評価すること）や行動計画書作成の手法など</p>
備 考	<p>開催時期 平成 27 年 6 月 8 日（月）～12 日（金）</p> <p>会 場 広島国際会議場ほか</p>
担当局・課	市民局国際平和推進部国際交流課

12 青少年国際平和未来会議の開催	
目 的	<p>青少年国際平和未来会議*を開催することにより、青少年の世界平和への意識を高めるとともに、国際社会に貢献することができるグローバル人材の育成を目指す。</p> <p>また、併せて、同会議に参加した青少年をつなぐネットワークの構築を図る。</p> <p>※ 世界の国々の青少年と本市の青少年が一堂に会し、世界平和について意見を交換し、未来に向けた取組について話し合い、全世界に平和のメッセージを発信するため、被爆 60 周年以来、本市と姉妹・友好都市等において毎年交互に開催しているもの。</p>
内 容	<p>1 記念プログラム 過去 10 年間の本会議への参加者に呼びかけ、本会議参加後に各自が行ってきた活動を報告してもらい、平和貢献についてのディスカッションを行い、今後、各自がなすべき活動について共に考え、意見交換する。</p> <p>2 継続プログラム 姉妹・友好都市等と本市の青少年が本市に集い、被爆の実相を学ぶとともに、各都市で行われている平和貢献活動等について情報交換し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて話し合い、ヒロシマアピールとしてまとめて発表する。</p>
備 考	<p>平成 27 年 8 月 4 日（火）～14 日（金） 10 泊 11 日</p> <p>主な活動 6 日（木）平和記念式典参列、7 日（金）平和記念資料館見学、11 日（火）過去 10 年間の参加者によるプレゼンテーション など</p>
担当局・課	教育委員会青少年育成部育成課

13 中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」の実施	
目的	本市が進める平和教育、英語教育の成果を生かし、中学生が広島を訪れた海外の人々に対して英語でメッセージを伝える活動を通して、平和への意識の高揚や英語力の向上を図るとともに、グローバル人材の育成につなげる。
内容	<p>広島市内の中学校に通学する3年生の中からメッセージ発信者を選考し、8月6日を中心に、広島を訪れた海外の人々に対して、英語で平和へのメッセージを伝える活動を行う。</p> <p>活動内容 平和記念式典に参列する駐日大使や海外からの一般参列者へのメッセージ発信 「ひろしま子ども平和の集い」でのメッセージ発信 「青少年国際平和未来会議」でのメッセージ発信</p>
備考	平成26年度 各中学校への事業周知、文案募集 平成27年度 メッセージ発信者の選考、研修会実施、 事業実施（8月5日（水）、6日（木））、まとめ作成
担当局・課	教育委員会学校教育部指導第二課

2 被爆者援護と次世代への平和への思いの継承

14 被爆 70 年史編修発行事業の実施	
目的	若者が被爆の実相と広島への歴史への理解を深め、未来を展望するきっかけとするため、70年史の編さんを行うとともに、被爆者や復興関係者の証言、関係する文書、写真などの貴重な資料を後世へ伝承する。
内容	<p>1 70年史の概要 明治以降の広島、とりわけ被爆前の広島と被爆後復興した広島の歩みを振り返ること で、戦前からの都市基盤や文化・習慣等の「継承」や「変遷」にも焦点を当てた市史と する。また、過去20年間に収集された新たな写真資料やその後の学術研究成果等を織 り込むとともに、これまでと異なる視点も交えた市史とする。</p> <p>2 関連事業 昭和23～24年頃の広島市民の生活などが記録されている映画「平和記念都市ひろし ま」の複製を入手し、市内で上映する。</p>
備考	平成26年度 資料調査・資料収集、映画「平和記念都市ひろしま」の複製入手 平成27年度 資料調査・資料収集 映画上映会の開催 （8月1日（土）、2日（日） 会場：映像文化ライブラリー） 平成28年度 原稿執筆・編集 平成29年度 印刷発行
担当局・課	企画総務局公文書館

15 「子どもたちへ原爆を語りつぐ本—総集版・2015—」の発行関連事業の実施	
目的	<p>「子どもたちへ原爆を語りつぐ本[*]」の増補改訂版を発行するとともに、発行を記念し た講演会等を同時に開催することで、より多くの人に原爆や平和について学ぶ機会を提供 する。</p> <p>※ こども図書館が収集した原爆に関する児童書の中から、幼児から中学生までを対象 とする図書目録を掲載したものであり、被爆40周年以来、10年ごとに増補改訂版を 発行している。</p>
内容	<p>1 「子どもたちへ原爆を語りつぐ本—総集版・2015—」の発行 (1) 目録掲載数 688点（前回改訂時から166点増） (2) 主な配付先 広島市内幼稚園、保育園、小・中学校、公民館等 （図書館ホームページにも掲載し、閲覧及びダウンロードによる入手も可能とす る。）</p> <p>2 講演会 目録に追加掲載する本の作家（朽木祥氏）による「自作を語る」講演会を開催する。</p> <p>3 ブックトーク 小学校高学年・中学生を主な対象として、目録に追加掲載する本を中心に、テーマに 沿って紹介する会を開催する。</p>
備考	平成27年8月6日（木） ブックトークの開催 10月3日（土） 講演会の開催
担当局・課	市民局生涯学習課（こども図書館）

16 被爆関連映像資料のアーカイブ化	
目 的	広島テレビ放送局が所蔵している被爆の実相を伝える様々な映像について、広島市がアーカイブ化（目録の作成）を進め、情報の整理・集積を図り、被爆体験を後世へ継承するための資料とするとともに、その活用を図る。
内 容	広島テレビ放送局と連携し、放送局が所蔵する映像のアーカイブ化を進め、可能なものから成果の公開に努める。 なお、アーカイブ化した映像の一部を、リニューアル後の平和記念資料館でも活用する。
備 考	平成 27 年 4 月 事業着手 平成 28 年 3 月 完成予定
担当局・課	市民局国際平和推進部平和推進課被爆体験継承担当（平和記念資料館）

17 被爆体験記集の作成・配付	
目 的	これまで執筆補助事業※で収集してきた被爆体験記のうち 50 編を取りまとめ、広島市内の中学校・高等学校へ平和学習資料として配付することにより、次世代を担う子どもたちへの被爆体験の継承を図る。 ※ 被爆体験記を残す意欲がありながら、高齢等により執筆が困難な広島県内の被爆者を対象に、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の職員が聴き取りと代筆を行い、被爆体験記の執筆を補助する事業。
内 容	平成 26 年度末までの間に収集する被爆体験記を取りまとめて被爆体験記集を作成し、平和学習資料として広島市内の中学校・高等学校に無償配付する。なお、用紙は折り鶴再生紙を使用する。 平成 27 年度以降も執筆補助事業を継続し、その成果物を定期的に被爆体験記集として取りまとめ、配付する。
備 考	平成 27 年 4 月～ 8 月 被爆体験記集作成 平成 27 年 9 月初旬 配付
担当局・課	市民局国際平和推進部平和推進課（（公財）広島平和文化センター）

18 平和記念式典への在外被爆者及び遺族の招へい											
目的	<p>平和記念式典には、10周年ごとに在外被爆者及びその遺族を招へいしており、被爆70周年においても、在外被爆者及びその遺族を招へいし、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う強い思いを共有し、世界へ発信する。</p> <p>併せて、国内在住被爆者との交流を行うとともに、招へいた在外被爆者に対して健康相談を行い、心身の保養を図る。</p>										
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在外被爆者及びその遺族の招へい ・ 在外被爆者等と国内被爆者との交流 ・ 在外被爆者に対する健康相談 <p>滞在日程（案）</p> <table> <tr> <td>8月3日 [泊：神田山荘]</td> <td>来日</td> </tr> <tr> <td>8月4日 [同上]</td> <td>市長訪問、 国内在住被爆者との交流（原爆養護ホーム訪問）</td> </tr> <tr> <td>8月5日 [同上]</td> <td>健康相談（被爆者）、平和記念式典リハーサル、 歓迎夕食会</td> </tr> <tr> <td>8月6日 [同上]</td> <td>平和記念式典参列</td> </tr> <tr> <td>8月7日</td> <td>帰国</td> </tr> </table>	8月3日 [泊：神田山荘]	来日	8月4日 [同上]	市長訪問、 国内在住被爆者との交流（原爆養護ホーム訪問）	8月5日 [同上]	健康相談（被爆者）、平和記念式典リハーサル、 歓迎夕食会	8月6日 [同上]	平和記念式典参列	8月7日	帰国
8月3日 [泊：神田山荘]	来日										
8月4日 [同上]	市長訪問、 国内在住被爆者との交流（原爆養護ホーム訪問）										
8月5日 [同上]	健康相談（被爆者）、平和記念式典リハーサル、 歓迎夕食会										
8月6日 [同上]	平和記念式典参列										
8月7日	帰国										
備考	<p>平成26年度 在外被爆者団体や関係機関との調整</p> <p>平成27年度 8月3日（月）～7日（金）（4泊5日） 招へい、交流</p>										
担当局・課	健康福祉局原爆被害対策部調査課										

19 被爆者との交流促進等事業の実施	
目的	<p>（一財）広島市原爆被爆者協議会が運営する神田山荘において、各種イベントを開催し、被爆者及び一般客の利用促進を図るとともに、施設の特性を踏まえ、被爆者との交流や平和学習の場としての活用を一層促進する。</p>
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 平和に関するパネル展示等 ロビーで平和に関するパネル展示を行うとともに、多目的室等を使用して被爆者との交流会や平和学習会を開催し、被爆の実相等を学ぶ機会とする。 2 被爆ピアノコンサート 多目的室を使用して被爆ピアノの演奏会を行い、平和への意識の高揚を図る。 3 神田山荘フェスタ フェスタ期間を2日間に拡大して利用促進のPRを行うとともに、パネル展示等が行われている期間にフェスタを開催することで、神田山荘の新たな役割を広める。 ※ 神田山荘フェスタは例年10月に1日開催しており、神楽公演やバザー、健康づくりコーナー等を実施している。
備考	<p>平成26年度 事業内容の企画・立案</p> <p>平成27年10月初旬～ パネル展示等 10月3日（土）、4日（日） 被爆ピアノコンサート、神田山荘フェスタ</p>
担当局・課	健康福祉局原爆被害対策部調査課（（一財）広島市原爆被爆者協議会）

20 原爆死没者慰霊式典の記録（冊子出版）	
目 的	本市は、永遠の平和を祈念することを目的として、原爆死没者を慰霊するために、地域・職域単位で行われる慰霊式典に対して補助金を交付している。（平成 26 年度：36 件） 被爆者の高齢化が進んでいる状況を踏まえ、被爆者自身が参加して行われているこれら慰霊式典の実施状況を記録した冊子を出版し、後世に継承する。
内 容	平成 27 年度において実施される慰霊式典について、以下の内容を記録した「ヒロシマの原爆死没者慰霊式典」（仮称）を出版する。 構成（案） <ul style="list-style-type: none"> ・ 名称 ・ 実施日、実施場所 ・ 参加人数 ・ 慰霊式典の経緯及び開催概要 ・ 慰霊式典の写真 など
備 考	平成 28 年 1 月 発行
担当局・課	健康福祉局原爆被害対策部調査課

21 ヒロシマ被爆二世医師会議被爆体験継承等事業の実施	
目 的	「ヒロシマの医師として、被爆体験の継承と被爆医療の推進及び平和を希求すべく行動する」ことを目的として、広島市医師会が設立した「ヒロシマ被爆二世医師会議」の取組に本市が協力し、被爆者医療に携わった医師の体験を継承するとともに、二世医師の被爆者医療に対する見識を深めることにより、被爆者援護と次世代への平和への思いの継承を図る。
内 容	1 実施主体 広島市医師会、広島市 2 内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民公開講演会（主に高校生等若い世代を対象） 被爆医療に携わる医師による講演及び国内外の被爆者団体代表者等によるパネルディスカッション等 ・ 広島市医師会発行の「ヒロシマ医師のカルテ」、「広島市医師会史（抽出）」の DVD 化及び英訳（抜粋） ・ 広島大学が開催する「放射線統合医科学」講義への広島市医師会医師の参加
備 考	平成 27 年 4 月～7 月 「放射線統合医科学」講義への参加 7 月～ DVD の作成・配付（学校・公民館等）、 英訳文の医師会ホームページへの掲載 8 月 2 日（日） 市民公開講演会開催（会場：広島医師会館）
担当局・課	健康福祉局原爆被害対策部調査課

22 平和記念公園レストハウスの改修	
目的	<p>原爆ドームや平和記念資料館、レストハウスがある平和記念公園は、どこの地域にもないオンリーワンの世界的価値を持っており、将来にわたり国内外から多くの人を引き付けて平和への思いを継承していくためには、この価値をさらに高めていく必要がある。</p> <p>レストハウスは、被爆により破損したものの倒壊を免れており、平和記念公園内では被爆前の面影を残す唯一の建物となっている。</p> <p>被爆 70 周年を契機に、このレストハウスを改修し、平和記念公園内での「おもてなし」の向上を図るとともに、観光資源として効果的に活用して、平和記念公園の価値をさらに高める。</p>
内容	<p>平和記念公園が国の名勝であることから文化庁と協議しつつ、レストハウスの耐震補強を行い、地下部の保存、休憩・案内機能の拡充などを行う。</p>
備考	<p>平成 26 年度 老朽度・耐震診断調査</p> <p>平成 27 年度 耐震補強計画立案、地質調査</p> <p>平成 28 年度 実施設計</p> <p>平成 29 年度 工事着手</p> <p>平成 30 年度 工事完了、オープン</p>
担当局・課	経済観光局観光政策部観光企画担当

23 『「命の水」～ひろしま水道物語～』による被爆体験の伝承	
目的	<p>本市が原爆で壊滅的な被害を受けた際にも、本市の水道は当時の職員の献身的な行動によって、市全域での断水が避けられ、今日まで不断水の記録を伝統として守り続けている。</p> <p>このエピソードを改めて広く PR し、被爆体験を伝承するとともに、本市の水道事業に対する信頼を高める。</p>
内容	<p>本市では、被爆 60 周年記念事業において、原爆投下の日、自ら火傷を負いながらも壊れたポンプを修理し、広島に水を送り続けた職員(堀野九郎技手)のエピソードを『「命の水」～ひろしま水道物語～』として紙芝居及び DVD を制作して、水道局の各種イベントにおいて活用するとともに、随時貸出も行っている。</p> <p>この紙芝居を、8月6日の平和学習に活用してもらうことを目的に、市内の小学校を対象に配付する。また、インターネットの動画配信サイトなど、情報メディアに DVD 映像の投稿を行い、このエピソードをより広めていく。</p>
備考	平成 27 年 6 月 紙芝居の作成・配付及び DVD 映像の投稿
担当局・課	水道局企画総務課

24 第23回世界スカウトジャンボリー（広島ピースプログラム）の開催支援	
目的	<p>山口県山口市をメイン会場に、日本では44年ぶりに開催される第23回世界スカウトジャンボリー※の1プログラムである「広島ピースプログラム」の開催を支援することにより、参加者が被爆の実相や核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願うヒロシマの心に触れ、平和について考え語り合う機会を提供し、平和への思いの共有を図る。</p> <p>※ 4年に1度開催される世界スカウト機構主催のスカウトの大会であり、第23回大会は、山口県山口市きらら浜をメイン会場として、162の国・地域から約3万人の青少年が集い、平成27年7月28日から8月8日までの12日間開催される。参加者は、平和、健康、環境、人権等をテーマに体験を交えながら学習するとともに、山口県内各地の学校などを訪れ、青少年や地域の方と交流する。</p>
内容	<p>スカウトジャンボリー参加者全員が交代で広島市を訪れ、平和記念資料館や平和記念公園の見学、被爆体験記朗読会、慰霊折り鶴製作、平和記念式典参列（参加国代表者等200人）などを行う「広島ピースプログラム」の開催を支援する。</p>
備考	<p>平成27年7月30日（木）～8月6日（木） 広島ピースプログラムの開催</p>
担当局・課	<p>教育委員会青少年育成部育成課</p>

3 スポーツ・文化芸術による平和の体現

25 被爆地広島での「エスキーツennis全国大会」の開催	
目的	広島が発祥の地であるエスキーツennisの全国大会を広島で開催し、全国から集う選手・役員に、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う「ヒロシマの心」に触れる機会を提供する。 また、広島が発祥の地であることを後世に伝えるためのメモリアルプレートを設置し、世界平和を希求するスポーツ「エスキーツennis」を被爆地から発信する。
内容	<p>1 大会概要</p> <p>主催 日本エスキーツennis連盟 主管 広島県エスキーツennis連盟 内容 一般の部：男女各18チームによる団体戦（予選リーグ、決勝トーナメント） シニアの部：男女各15ペアによるダブルス戦（予選リーグ、決勝トーナメント）</p> <p>2 平和の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 選手・役員による平和記念資料館見学・原爆慰霊碑参拝 前夜祭における被爆体験朗読劇「『平和への祈り』～スポーツを通して平和を～（仮題）」の上映 「被爆70周年記念」メモリアルプレートの設置（新牛田公園）
備考	開催時期 平成27年10月4日（日） 会場 東区スポーツセンター
担当局・課	市民局文化スポーツ部スポーツ振興課

26 ひろしま国際平和マラソンの開催	
目的	毎年、開催している「ひろしま国際平和マラソン」において、参加者が平和のメッセージを記載したワッペンをユニホームに貼り付けて走るなど、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う「ヒロシマの心」を発信する。
内容	<p>1 大会概要</p> <p>主催 ひろしま国際平和マラソン実行委員会 コース 広島市西区観音新町の広島ダイヤモンドホテル前をスタート 商工センターで折り返し、コカ・コーラウエスト広島スタジアムでゴール 参加範囲 小学生以上</p> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジコース（約10km） 高校生以上 ビギナーコース（約5km） 小学生以上 車いす（約5km） 中学生以上 キッズコース（約1km） 小学生を含むグループ <p>参加定員 12,000人</p> <p>2 平和の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者の「平和へのメッセージ」をワッペンに書き込み、当日、着衣に貼り付けて走る。 参加者等がサブイベント会場に設置するボードに「平和へのメッセージ」を書き込み、大会終了後、市役所本庁舎等で展示する。
備考	開催時期 平成27年11月3日（火・祝）
担当局・課	市民局文化スポーツ部スポーツ振興課

27 広島交響楽団特別事業「摂氏 4000 度からの未来」プロジェクトの実施	
目的	広島交響楽団の創立 50 周年を契機に、同楽団が企画している特別事業を共同で実施し、「核兵器廃絶と世界恒久平和の実現」を願うヒロシマの心を広く国内外に発信する。
内容	<p>1 作曲の委嘱 「広島レクイエム」などの作曲で知られる広島市出身の著名な作曲家の糀場富美子氏に、原爆投下時に摂氏 4000 度にも達した広島の子供の現在と未来に向けてエールを送る新作「摂氏 4000 度からの未来」の作曲を委嘱する。</p> <p>2 市民への公開 広島交響楽団による演奏会で広く市民に公開する。</p> <p>3 CD 化による各国為政者等への配布 広島交響楽団演奏会において、この新作の世界初演と、同日に演奏を予定しているベートーベン交響曲第 5 番「運命」をあわせてライブ録音して CD 化し、各国為政者や平和首長会議出席者等に贈呈する。</p>
備考	<p>平成 26 年度 作曲の委嘱 演奏会での公開及びライブ録音 (平成 27 年 3 月 27 日 (金) 会場: JMS アステールプラザ大ホール)</p> <p>平成 27 年度 CD 制作、各国為政者等への贈呈 演奏会での公開 (平成 28 年 2 月 19 日 (金) 会場: 広島文化学園 HBG ホール)</p>
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

28 広島の底力！被爆 70 周年復興大写真展の開催	
目的	被爆当時を知らない世代や外国人に、被爆の実相と復興に立ち上がった先人の不屈の精神を伝え、今なお紛争に苦しんでいる人々を勇気づけるとともに、「平和への思い」の継承と共有化を図る。
内容	<p>1 主催 広島写真美術協会※、広島市</p> <p>※ 広島で活躍しているプロの写真家、グラフィックデザイナー等で構成された団体。被爆により焦土と化した広島が復興していく過程を撮り続けた写真家・明田弘司氏が名誉会長を務める。</p> <p>2 内容 写真家・明田弘司氏の写真を中心に、広島の子供の被爆直後から復興、発展の歴史を収めた写真展</p>
備考	<p>開催時期 平成 27 年 4 月 27 日 (月) ～ 5 月 6 日 (水)</p> <p>会場 旧日本銀行広島支店</p>
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

29 国連創立 70 周年記念未来につなぐヒロシマ平和コンサートの開催	
目 的	日本の伝統音楽を通じて、国連加盟国の要人等に日本の文化に対する理解を深めてもらうとともに、日常の暮らしの中にある「平和の尊さ」を見つめなおす契機とする。また、広島の子どもに参加してもらうことで、子どもに被爆都市ヒロシマの役割を認識してもらい、平和発信活動の継承を図る。
内 容	1 主催 広島邦楽連盟、国連日本政府代表部、広島市 2 内容 平成 27 年 4 月から 5 月にかけて開催される NPT 再検討会議に合わせ、ニューヨーク国連代表部等で開催する邦楽コンサート
備 考	開催時期 平成 27 年 4 月 27 日（月）～5 月 3 日（日） 会 場 ニューヨーク国連代表部ほか
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

30 日米の懸け橋～Umi Garrett～平和の継承コンサートの開催	
目 的	米国在住の 14 歳の天才ピアニスト・宇見ギャレットさんと広島の中・高生による意見交換会やコンサートを通じて、被爆の実相や平和への思いの共有を図り、宇見さんの帰国後は、宇見さんを通じて、多くのアメリカ人と平和への思いを共有する契機とする。
内 容	1 主催 Music Party 実行委員会、広島市 2 内容 ・ 宇見ギャレットさんと、同世代の広島の中・高生による「広島の復興の歩みと平和への取組」に係る意見交換会 ・ 宇見ギャレットさんと広島の中・高生、広島交響楽団とのコンサート
備 考	開催時期 平成 27 年 7 月 15 日（水） 会 場 国際会議場フェニックスホール
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

31 現代美術館特別展の開催	
目 的	現代美術館設置の基本理念である「現代をみつめ、未来への展望をきりひらく」、「国際的視野をもった」美術館として、また、第二次世界大戦後の美術を主要な対象とし、「ヒロシマ」をテーマとした作品の収集や制作委託を行う美術館として、現代美術を通じて「平和」、「ヒロシマ」を広くアピールするとともに、平和の希求には、美術を含む文化の充実と豊かさが重要であることを伝える。
内 容	『被爆 70 周年 ヒロシマを見つめる三部作』 「被爆 70 周年 ヒロシマを見つめる」を共通テーマに掲げ、ヒロシマを考える節目の年に、現代の美術表現を通じて様々な視点からヒロシマを見つめ直す特別展（グループ展）を 3 回連続で開催する。平成 27 年内に開幕する三つの展覧会に共通テーマを設けることで、広島内外への発信力を高め、テーマの探求をより深化させる。 ・特別展第一部「ライフ=ワーク」 ・特別展第二部「俯瞰の世界図」 ・特別展第三部「ふぞろいのハーモニー」
備 考	開催時期 特別展第一部 平成 27 年 7 月 18 日（土）～9 月 27 日（日） 特別展第二部 平成 27 年 10 月 10 日（土）～12 月 6 日（日） 特別展第三部 平成 27 年 12 月 19 日（土）～平成 28 年 3 月 6 日（日） 会 場 現代美術館
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課（現代美術館）

32 博物館資料を活用した企画展示の開催	
目 的	70 年という歳月は、3 世代にわたる時の重みがあり、市民の生活スタイルはもちろん個々人の地域社会との関わりも大きく変化している。今回この移り変わりにスポットをあて、収集した博物館資料を活用した展示会を開催し、郷土の歴史に触れる機会を提供することで、市民の郷土への愛着を高め、地域の活性化に貢献する。
内 容	第二次世界大戦を挟んで一変した広島市のまちの様子、市民生活の変化を中心テーマに展示会を開催する。
備 考	平成 26 年度 展示シナリオ作成、文献等調査、展示資料選定等 平成 27 年度 展示レイアウト作成、写真・説明等展示パネル制作等 展示会開催 開催時期 平成 27 年 7 月 18 日（土）～8 月 16 日（日） 会 場 旧日本銀行広島支店
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

33 バレエコンサート&眠れる森の美女全幕の開催	
目的	被爆の惨禍を乗り越え再興した広島軌跡と平和の尊さを伝えるバレエを創作し、次世代を担う若者を中心としたバレリーナが演じるにより、「平和への思い」の継承と共有化を図る。
内容	1 主催 平和バレエコンサート実行委員会、広島市 2 内容 海外の著名な演出家や国内外で活躍している本市出身のプロのバレリーナ等をゲストに迎えた、小学生から成人までのアマチュアの出演者によるバレエ公演
備考	開催時期 平成27年7月25日(土) 会場 広島文化学園 HBG ホール
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

34 人の心に平和のとりでを築くコンサートの開催	
目的	世界恒久平和の実現のためには、ユネスコ*憲章前文の「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」との1文が表すように、一人一人の心の中に「平和のとりで」を築く必要があるということをテーマにコンサートを開催することにより、「平和への思い」の継承と共有化を図る。 * 国際連合教育科学文化機関 (United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization U.N.E.S.C.O.)。諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関。
内容	1 主催 人の心に平和のとりでを築くコンサート実行委員会、広島市 2 内容 ・ 曲名 「レクイエム」フォーレ作曲/指揮：田中祐子 「土の歌」大木惇夫作詞・佐藤眞作曲/指揮：佐藤眞 ・ 演奏形態 合唱団及びオーケストラ(公募)
備考	開催時期 平成27年7月26日(日) 会場 広島文化学園 HBG ホール
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

35 2015 どもコーラスフェスティバル in ひろしまの開催	
目的	国内外の児童合唱団が参加する合唱大会を開催することにより、次世代を担う子どもたちに「平和への思い」を継承し共有化を図る。
内容	<p>1 主催 (一社) 全日本合唱連盟、朝日新聞社、広島市</p> <p>2 内容 国内外の児童合唱団が広島に集い、合唱を通じて平和の尊さを学び、国際理解と交流を深める。</p> <p>(1) 1日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会式 ・ こどものためのアトリエ (参加団体で結成する合同合唱団による練習) <p>(2) 2日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平和のセレモニー (平和記念公園で「ひろしま平和の歌」の合唱及び慰霊碑に献花) ・ 各団体演奏、アトリエ演奏 (合同合唱団による演奏) ・ 閉会式、全体合唱
備考	<p>開催時期 平成 27 年 8 月 1 日 (土)、2 日 (日)</p> <p>会場 広島文化学園 HBG ホール JMS アステールプラザ大音楽室・オーケストラ等練習場</p>
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

36 I PRAY 2015 の開催	
目的	原爆投下による広島悲劇と、復興に向けて立ち上がった人々の平和を願う姿を題材にした創作劇を、広島の青少年が演じることにより、「平和への思い」の継承と共有化を図る。
内容	<p>1 主催 NPO 法人 I PRAY*、広島市</p> <p>※ 未来を担う子ども達が、被爆体験を継承し、自ら学び、演じ、平和と命の大切さを伝え、世界平和に寄与することを目的に活動している広島の NPO 法人。</p> <p>2 内容 原爆投下による広島悲劇と、復興に向けて立ち上がった人々の平和を願う姿を題材にした創作劇を中心とした公演</p>
備考	<p>開催時期 平成 27 年 8 月 3 日 (月)</p> <p>会場 JMS アステールプラザ大ホール</p>
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

37 平和のタベコンサートの開催	
目 的	<p>昭和 61 年から毎年開催している平和のタベコンサートの開催により、原爆犠牲者の慰霊及び核兵器廃絶と世界恒久平和の実現という「平和への思い」の共有を促進するとともに、これまで広島市が取り組んできた音楽事業で芽生えた平和文化の継承と普及を促進する。</p> <p>第 30 回の節目を迎える被爆 70 周年には、例年のコンサートに加え、著名な指揮者を迎えて二部構成で開催することにより、音楽を通じてヒロシマの心を世界に発信する。</p>
内 容	<p>第 1 部 主催 (公社) 広島交響楽協会、中国新聞社、広島市、(公財) 広島市文化財団 内容 広島交響楽団が同楽団の音楽監督秋山和義氏の指揮で「Music for Peace 世界に平和を！」と題して、生誕 120 周年を迎えるヒンデミット作曲の交響曲「世界の調和」を演奏するコンサート</p> <p>第 2 部 主催 人の心に平和のとりでを築くコンサート実行委員会、広島市 内容 国内外で活躍している指揮者(大野和士氏)やソリストを招き、本市の復興の原動力になったと言われる「ベートーベン交響曲第 9 番合唱つき」を演奏するコンサート</p>
備 考	<p>第 1 部 平成 27 年 8 月 5 日 (水) (会場: 広島文化学園 HBG ホール)</p> <p>第 2 部 平成 27 年 8 月 9 日 (日) (会場: 上野学園ホール)</p>
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

38 国連合唱団コンサートの開催	
目 的	<p>国連事務局職員で構成する合唱団を招致し、コンサートを開催することにより、「平和への思い」の継承と共有化を図る。</p>
内 容	<p>1 主催 国連合唱団平和と希望のコンサート広島・長崎・東京公演実行委員会、日米文化交流プロジェクト in 広島実行委員会、広島市、広島県合唱連盟、エリザベト音楽大学</p> <p>2 内容 ニューヨークの国連事務局職員で構成する合唱団による平和と慰霊のコンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国連合唱団演奏 ・ 市民合唱団演奏 ・ ゲスト(声楽家等)演奏 ・ 国連合唱団と市内の合唱団による合同演奏
備 考	<p>開催時期 平成 27 年 8 月 6 日 (木)</p> <p>会 場 JMS アステールプラザ大ホール</p>
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

39 平和のタンゴの開催	
目的	平和首長会議加盟都市のブエノスアイレス市からアルゼンチンタンゴダンサーを迎え、被爆者の追悼と平和への祈りを目的とした「平和のタンゴ」の公演を行うことにより、「平和への思い」の継承と共有化を図る。
内容	<p>1 主催 平和のタンゴ公演開催実行委員会、ブエノスアイレス市、広島市</p> <p>2 内容 ブエノスアイレス市を代表する世界トップダンサー男女ペア 1組と、本市のアルゼンチンタンゴダンサー男女ペア 1組による公演ほか</p>
備考	開催時期 未定 会場 未定
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

40 平和記念公園 上田宗箇流茶会の開催	
目的	原爆でも破壊することができなかった「文化」の力強さや市民の情熱を、国内外に発信し、多くの人々に希望を与える。また、広島独自の「おもてなしの心」を広くアピールするとともに、広島若き世代とともに事業を実施することにより、「平和への思い」の継承と共有化を図る。
内容	<p>1 主催 平和記念公園上田宗箇流茶会実行委員会、広島市</p> <p>2 協力 上田宗箇流、市内各大学の茶道部</p> <p>3 内容 平和記念公園を茶庭に見立て、命の源である「水」をテーマにした上田宗箇流の茶会</p>
備考	開催時期 平成 27 年 8 月 15 日（土） 会場 平和記念公園
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

41 ヒロシマ・アート・ドキュメント 2015 の開催	
目 的	ヒロシマの持つ悲惨な記憶を新たな創造のエネルギーに変換していくことをテーマにした現代美術の展覧会を開催し、広島への再生や平和の尊さを再認識する契機とする。
内 容	<p>1 主催 CREATIVE UNION HIROSHIMA※、広島市</p> <p>※ 国内外の若手作家を中心に、広島から世界へ芸術を発信することを目的とした団体。</p> <p>2 後援 フランス大使館</p> <p>3 内容 世界的に著名な作家が、感じ取ったヒロシマを表して制作した現代美術作品の展覧会（広島での開催後、長崎でも開催）</p>
備 考	<p>開催時期 平成 27 年 9 月 19 日（土）～10 月 3 日（土）</p> <p>会 場 旧日本銀行広島支店</p>
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課

42 障害者と広島交響楽団とのジョイントコンサート（マーガレットコンサート）の開催	
目 的	障害者の社会参加促進を目的に毎年開催している「マーガレットコンサート」について、平和との関連性を持たせることにより、障害者をはじめ全ての人にやさしい平和都市としての求心力の向上を図る。
内 容	<p>障害者と広島交響楽団のジョイントによる楽曲演奏に加え、平和に関連した取組として、以下の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平和に関連する楽曲の演奏や合唱 ・ 障害者による平和メッセージの発信 ・ 長崎市在住の障害者や特別ゲスト（井上あずみ氏）の招待
備 考	<p>開催時期 平成 27 年 7 月 12 日（日）</p> <p>会 場 国際会議場フェニックスホール</p>
担当局・課	健康福祉局障害福祉部障害福祉課

43 障害者ピースアート事業の実施	
目的	平和をテーマに据え、障害者の芸術活動を支援する事業をモデル的に実施し、障害者の新たな生きがいづくりや、芸術活動を通じた経済的自立に向けた可能性の拡大につなげるとともに、障害者をはじめ全ての人にやさしい平和都市としての求心力の向上を図る。
内容	<p>1 障害者ピースアートコンテストの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者を対象とした芸術教室を開催する。 ・ 平和をモチーフに障害者が制作したアートやデザインを募集し、応募作品の中から優秀作品を選び、表彰する。 ・ 応募作品を集めて「障害者によるピースアート展」を開催するとともに、その一部についてデザインを生かし、商品化を目指す。 <p>2 ヒロシマにさわろう ～手でさわる平和記念公園の制作～ 視覚障害者が、平和記念公園内の建造物などを理解しやすいよう、一部を手で触ることができる大きさに再現し、展示する。</p>
備考	平成 27 年 12 月（予定） 障害者ピースアートコンテストの開催 平成 27 年度中 「手でさわる平和記念公園」の制作・展示
担当局・課	健康福祉局障害福祉部障害福祉課

4 復興したまちの魅力の再発見と更なる発展

44 「広島 ^{とお} 通り御祭礼 ^{ごさいれいみこし} 神輿行事」の復活・継承	
目的	<p>「通り御祭礼」は、広島東照宮の祭礼における神輿行列として、徳川家康の50年忌にあたる寛文6年（1666年）に始まり、以来50年ごとに行われていたもので、当初、広島藩側で行う官祭としての性格が色濃かったが、次第に町民が行列に参加するようになりイベント化が進むなど、広島城下における都市祭礼としての性格を備えるようになった。</p> <p>しかしながら、文化12年（1815年）以降、慶応元年（1865年）は長州戦争、大正4年（1915年）は第一次世界大戦、昭和40年（1965年）は原爆被害の復興途上のため、神輿行列は行われていない。</p> <p>戦争や原爆被害のために200年途絶えた神輿行列を、しきたりに従って昭和40年（1965年）の50年後にあたる平成27年（2015年）に復元・復活させることにより、広島固有の伝統文化の継承を図る。</p>
内容	<p>神輿行列の復元・復活に際し、実施母体となる経済人、学識経験者及び地域住民等が参画する「通り御祭礼実行委員会」に対し、広島固有の伝統文化の継承を図る観点から指導・助言を行う。</p>
備考	<p>実施時期 平成27年10月10日（土） 場 所 広島東照宮～饒津神社</p>
担当局・課	市民局文化スポーツ部文化振興課文化財担当

45 70年目の広島の旅の実施	
目的	<p>原爆の惨禍を経験してそれを乗り越えた平和都市「広島」でしか体感できない観光メニューを開発するとともに、「70年目の広島の旅」として取りまとめてプロモーション活動を行うことにより、平和都市としての求心力の向上を図り、広島魅力を発信する。</p>
内容	<ol style="list-style-type: none"> 「70年目の広島の旅」のプロモーション、広島巡りの旅の実施 観光客に訴求効果のある被爆70周年記念事業を「70年目の広島の旅」として取りまとめ、旅行会社等へのプロモーション活動を行う。また、被爆前と現在の市街地を比較しながら街歩きをするコースや、被爆電車で被爆建物等を巡り、併せて上田宗箇流の茶道を体感できるコースを設定し、広島巡りの旅を実施する。 折り鶴とうろう流しの実施 8月6日に行われる「ピースメッセージとうろう流し」において、折り鶴とうろうを川面に浮かべる。 ひろしまドリミネーション・被爆70周年区画の展開 NHK広島放送局南側緑地などにおいて、平和をイメージしたライトアップを展開する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> 広島巡りの旅の実施 「今昔をたどるまち歩きガイド」 実施時期：平成27年7月～9月の毎週日曜日 「被爆電車と武家茶道『上田宗箇流』の体験」 実施時期：平成27年9月5日、19日、10月3日、17日、11月7日、14日の土曜日 折り鶴とうろう流しの実施 実施時期 平成27年8月6日（木）、場所 元安川親水護岸 ひろしまドリミネーション・被爆70周年区画の展開 実施時期 平成27年11月17日（火）～平成28年1月3日（日） 場 所 平和大通り
担当局・課	経済観光局観光政策部観光企画担当

46 復興の都市計画についての企画展の開催	
目的	<p>被爆から70年が経過し、市民の間で復興の記憶が薄れつつある一方で、東日本大震災を契機として、都市の復興が注目を集めており、広島復興の過程を次世代に劣化させることなく継承していくことの必要性が、以前にも増して高まっている。</p> <p>このため、復興の都市計画について市民目線で紹介する企画展の開催等により、広島市を平和記念都市として建設する理念及び意義についての市民の理解の促進と、復興の歴史の継承を図る。</p>
内容	<p>広島復興において広島平和記念都市建設法と都市計画が果たした役割を紹介する企画展（パネル展示等）を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パネル展示 戦後の復興まちづくりを、広島東洋カープの歩みと対比しながら学ぶパネル展示 ・ 収蔵品展示 ・ 特別映像企画 小学生からの質問に、カープOBが答える形で、各時代における、街とカープの様子を振り返るインタビュー動画の上映（聞き手・松井市長）
備考	<p>開催時期 平成27年7月31日（金）～8月10日（月） 午前9時30分～午後8時</p> <p>会場 合人社ウェンディひと・まちプラザ 北館4階ギャラリーA・B</p>
担当局・課	都市整備局都市計画課

47 広島の誇りある景観まちづくりプロジェクトの実施	
目的	<p>被爆による廃墟からの復興の過程で整備された平和記念公園や平和大通り、河岸緑地などは、広島固有の景観を形成するものとして、大きな役割を果たしている。また、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑、平和記念資料館は平和記念公園の設計理念の柱として、南北一直線上に配置されており、この軸線を見通す景観は、本市の都市づくりの基軸の一つとして特に重要である。こうした都市資源を再認識し、後世に確実に継承していくとともに、将来に向けた「広島らしさ」を感じるまちづくりにつなげる。</p>
内容	<p>1 都市軸の銘板等設置 平和記念資料館の再整備に合わせて、南北軸を見通す景観の主要な視点場である資料館本館下床面に、南北軸の存在を広く周知するための表示を行うとともに、その付近に説明板を設置する。中工場についても、同様の趣旨で説明板を設置する。</p> <p>2 広島の景観をとらえた写真集の作成等 平和、歴史・文化、水と緑、にぎわい・おもてなしの観点から広島の景観をとらえた写真を市民から募集し、被爆70周年の広島の景観にふさわしい写真を選考した上で、写真集を作成する。写真はデジタル化し、情報発信する。また、広島らしい眺望景観を選び、そこを望む眺望点からの定点写真の撮影を行い、パンフレットを作成する。 写真の選考等は、広島市ひろしま街づくりデザイン賞受賞者選考審議会において行う。</p>
備考	<p>1 都市軸の銘板等設置 平成29年度 銘板・説明板の設置</p> <p>2 広島の景観をとらえた写真集の作成等 平成27年度 審議会の開催、写真の募集等 平成28年度 審議会の開催、定点写真の撮影、写真集・パンフレットの作成等</p>
担当局・課	都市整備局都市計画課都市デザイン担当

48 全国花のまちづくり広島大会の開催	
目的	<p>花と緑あふれる美しいまちの実現は、地域に誇りと愛着を持つ市民・企業の自主的活動とそれを支える行政の取組が組み合わさって可能となる。</p> <p>市民の花と緑のまちづくりに対する意識醸成を図るとともに、市民・企業等との協働による取組をさらに進める契機とするため、全国花のまちづくり地方大会^{※1}を誘致・開催する。</p> <p>※1 全国的な花のまちづくりの普及を目的として、毎年、春の都市緑化推進運動期間（4月1日～6月30日）中の2日間、開催地の地方公共団体と花のまちづくりコンクール推進協議会（事務局：（公財）日本花の会）との共催で開催されている。</p>
内容	<p>本市が事務局となり、地域団体の代表者等及び（公財）日本花の会からなる実行委員会を組織し、大会の企画、準備、運営に当たる。</p> <p>大会では、花のまちづくりに取り組んでいる地域団体や、全国花のまちづくりコンクール^{※2}の入賞者による事例発表、基調講演、大会参加者による交流会、現地見学会などを実施する。</p> <p>※2 花のまちづくりを国民的な市民運動として普及、定着させるために、全国各地で取り組まれている花や緑による優秀な活動を顕彰し、広く紹介するものとして実施されている。</p>
備考	<p>平成26年度 実行委員会の設立、大会プログラム等の企画、PR活動等</p> <p>平成27年度 大会開催 開催時期 平成27年4月25日（土）、26日（日）</p> <p>会 場 広島国際会議場（主会場）、中央公園等</p>
担当局・課	都市整備局緑化推進部緑政課花と緑の施策担当

49 平和を象徴する緑の保存・継承事業の実施	
目的	<p>先人のたゆまぬ努力と国内外の多くの人たちの協力により原爆の被災から緑豊かな都市へと復興してきた本市の歴史をアピールし、被爆100周年に向けてさらに平和を象徴する緑の保存・継承を進めていくもので、広島の復興した姿と平和への思いを未来に伝える空間づくりに寄与する。</p>
内容	<p>1 友好の木 ーハナミズキ・イニシアチブ</p> <p>大正元年（1912年）に日本から米国に3,000本のサクラが寄贈されてから100周年を迎えたことを記念して、友好の象徴として米国から日本の主要な都市へ3,000本のハナミズキを贈る日米合同のプロジェクトであり、平和大通りで植樹式を行う。</p> <p>2 供木運動等寄付樹木の保存・継承</p> <p>市民や来訪者に「供木運動」などの取組を知ってもらうための説明プレートを、平和記念公園や平和大通りに設置する。また、供木運動や海外からの寄贈により植えられた樹木のうち、衰弱が認められる個体の樹勢回復に向け、樹勢調査を行う。</p>
備考	<p>1 友好の木 ーハナミズキ・イニシアチブ</p> <p>平成27年度 植樹式の開催</p> <p>2 供木運動等寄付樹木の保存・継承</p> <p>平成27年度 供木運動等に関する資料収集・分析、樹勢調査</p> <p>平成28年度 説明プレート設置</p>
担当局・課	都市整備局緑化推進部緑政課花と緑の施策担当

50 猿猴橋復元事業の実施	
目 的	<p>被爆橋の一つである猿猴橋には、大正 15 年に現在のコンクリート橋に架け替えられた際、電飾や鋳物の透かし彫りなど豪華な装飾が施されていたが、昭和 18 年、戦時下の金属資源不足のため発せられた金属類回収令により、これらの装飾品が全て供出された。また、昭和 20 年の原子爆弾投下では、欄干の一部が破損する被害を受けたものの、構造的な被害はわずかにとどまり、被災者の避難や救援活動に使われ、多くの命をつなぐ役割を担った。</p> <p>現在、地元では、広島復興を見届けてきた猿猴橋の一部を、広島市立大学芸術学部の協力を得て復元し、後世に伝えようと募金活動が行われていることから、その取組と連携して、市民と公共の協働によるまちづくりを行うとともに、JR 広島駅周辺において進められている再開発事業や河岸緑地整備などと併せ、来訪者に新たな都市の魅力を発信する。</p>
内 容	<p>猿猴橋の諸元 橋長：62.5m、有効幅員：8.2m、形式：5 径間 RCT 桁・壁式橋脚</p> <p>復元内容 設置：親柱 4 基・照明柱 8 基、取替え：高欄 40 箇所</p>
備 考	<p>平成 26 年度 設計 平成 27 年度 工事（平成 28 年 3 月完成予定）</p>
担当局・課	道路交通局道路部道路課、街路課

まちづくり先導事業

まちづくり先導事業

被爆 70 周年を契機に、被爆 100 周年を見据えて、目指すべき世界に誇れる「まち」の実現に資する事業を「まちづくり先導事業」として位置付け、まちづくりの新たな一步を踏み出す。

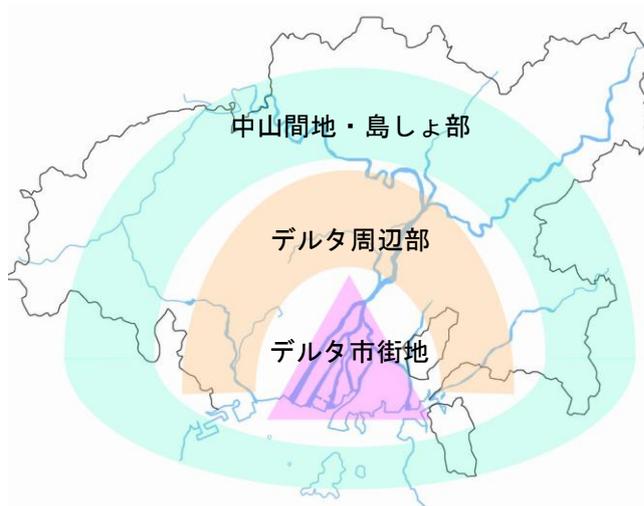
都市構造と三つのエリアの設定

広島市は従来、三角州（デルタ）の街と呼ばれ、その中で様々な機能が完結していた。

しかしながら、周辺町村との合併により市域が大幅に拡大し、山間部から丘陵部、平地、島しょ部など、様々な地勢を有する都市となり、地域ごとに機能を分担し合いながら発展してきた。

世界に誇れる「まち」を実現するに当たっては、地域ごとの機能や特色を再確認しつつ、それらに磨きをかけるとともに、地域間の交流・連携を深めていくことが肝要である。

こうした地域を、図のように、「デルタ市街地」と、それを取り囲むように開発された「デルタ周辺部」、さらにその外側にある「中山間地・島しょ部」の三つのエリアに設定する。



<デルタ市街地>

高次な都市機能が集積し、活発な経済活動が展開されている。また、中心部には紙屋町・八丁堀地区の商業施設を中心とした都市空間と、広島城跡、中央公園、平和記念公園、平和大通りといった公共空間とが程よく調和した街並みが形成されている。

<デルタ周辺部>

住宅団地を中心に、居住の場として市民の生活を支えるエリアが広がっている。また、西風新都では、「住む・働く・学ぶ・憩う・護る」という複合機能を備えた都市づくりを推進している。

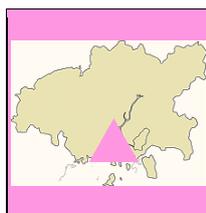
<中山間地・島しょ部>

市民が日常的に触れ合える豊かな自然が広がっている。また、人に心の豊かさをもたらす、温かみある森林や穏やかな島々が存在し、新鮮で豊富な食材をもたらす農林水産業の営みがある。

まちづくりの戦略

- ◎ 市民の誰もが、エリアごとの特色、都市的魅力・自然的魅力を容易に享受できるように、それらを一層引き立てる。
- ◎ ヒト・モノ・カネ・情報の好循環を生むために、「デルタ市街地」・「デルタ周辺部」にかけて“公共交通を中心とした四つの循環”（「バスによる循環」、「路面電車による循環」、「西風新都内の循環」、「西風新都・デルタ間の循環」）を形成する。

1 デルタ市街地でのまちづくりの展開



「楕円形の都心」を中心に、国内外から多くの人を呼び込む都市機能を集積し、それらを繋ぐ交通ネットワークとして、バスや路面電車による循環を生み出すとともに、文化の薫り漂う街並みと、楽しく歩いて寛げる安全な歩行者空間の形成、交通結節点周辺の機能強化により、市域のみならず、中四国地方のエンジンとして活力やにぎわいを生み出す。

(1) 国内外から多くの人を呼び込む都市機能の集積	
広島駅周辺地区のまちづくりの推進 (都市整備局都市機能調整部)	広島駅周辺地区の市街地再開発等を着実に推進するとともに、再開発後の同地区が紙屋町・八丁堀地区と並ぶ「まち」として持続的に発展していけるよう、地区内の事業者等によるエリアマネジメント活動を推進する。
都市計画制度を活用した都心部の活性化 (都市整備局都市計画課)	セットバック等を条件に建築基準法による容積率等の制限の一部を適用除外とすることが可能となる、“街並み誘導型地区計画”などの都市計画制度の活用により、土地利用ニーズを高め、民間ビルの建替え促進による都心部の活性化を図る。
Hiroshima Free Wi-Fi プロジェクト (経済観光局観光政策部)	外国人観光客の滞在期間中の満足度を高め、更なる観光客の増加等につなげるため、公共施設を中心に整備を進めている無料公衆無線 LAN について、周遊性の高い市内中心部（広島駅から平和記念公園まで）の商業施設等への設置を促進するとともに、観光情報の提供等を行う。

(2) 都市機能を繋ぐ交通ネットワークの形成	
広島駅南口広場の再整備等 (道路交通局都市交通部)	利用者の利便性向上の観点に立った公共交通ネットワークの形成を図るとともに、広島駅周辺地区で進展する市街地再開発事業等と一体的なまちづくりを推進するため、路面電車の進入ルートを高架とする駅前大橋ルートによる南口広場の再整備に取り組む。併せて、循環ルートの整備等による沿線地域の利便性の確保及びにぎわいの創出等に取り組む。
観光レンタサイクル事業 (道路交通局自転車都市づくり推進課)	自転車都市としての広島の新たな魅力の発信に向け、国内外の観光客等の来街者が市域内の観光施設等を快適に巡るための自転車レンタルシステムについて、利用者ニーズ等を把握した上で、ポートの拡充など事業規模の拡大や、持続可能な運営システムの構築に取り組む。

(3) 楽しく歩いて寛げる安全な歩行者空間の形成	
楕円形の都心づくりを支える歩行環境の整備 (道路交通局道路計画課)	「楕円形の都心」における東西の二つの核である「広島駅周辺地区」及び「紙屋町・八丁堀地区」、さらに、それらをつなぐ「西国街道を軸とした地区」における、安全で快適な歩行環境の整備計画を取りまとめ、三つの地区の歩行環境改善に一体的に取り組むことにより、楕円形の都心における回遊性の向上とにぎわいの創出を目指す。

(4) 交通結節点周辺の機能強化	
西広島駅周辺地区のまちづくりの推進	西広島駅周辺地区において、JRと路面電車、バスの乗り換え利便性の向上など、交通結節機能の強化を図るとともに、計画的な市街地整備に取り組むことにより、地区の拠点性を向上させ、駅周辺にふさわしい都市空間の形成を図る。
西広島駅北口地区のまちづくり (都市整備局都市整備調整課)	西広島駅北口を、拠点地区にふさわしい市街地にしていくため、交通結節点整備等との整合を図りながら、計画的な市街地整備と都市機能の強化を図る。
西広島駅周辺地区交通結節点整備 (道路交通局都市交通部)	西広島駅周辺地区の拠点性を向上させ、新たな都市空間の形成を図るため、南北自由通路の整備と駅舎のバリアフリー化、南口駅前広場の再整備、北口駅前広場とアクセス道路の整備を、北口地区のまちづくりと一体的に推進する。



6本の川が流れ、都市部にありながらも、緑豊かな自然に触れることができる環境を生かし、都市と自然の融合を誰もが一体的に体感し、快適で居心地よく過ごすことのできる空間を創出することによりデルタの魅力を再興する。

(5) 都市と自然の融合によるデルタの魅力を再興

<p>美しい川づくり (企画総務局分権・行政改革推進課)</p>	<p>猿猴川について、県市が連携して河川環境改善（ごみ・ヘドロ対策）、河川空間・河岸の整備を実施することにより、「水の都の象徴的な空間」としての水辺づくりを進め、都心部における新たなにぎわいの創出や来広者の回遊性の向上を図る。</p>
<p>河岸緑地整備事業 (都市整備局公園整備課)</p>	<p>人々に憩いや交流の場を提供し、「水の都ひろしま」を象徴する美しい都市景観を形成する河岸緑地の整備を推進する。</p>
<p>水辺のライトアップ事業 (経済観光局観光政策部)</p>	<p>京橋川オープンカフェが両岸に設置されることに伴う地元住民のにぎわいづくりの気運の高まりを支援することとし、この地区の水辺のライトアップ事業を実施する。</p>
<p>比治山公園「平和の丘」構想の推進 (企画総務局政策企画課)</p>	<p>比治山公園の持つ歴史的経緯や立地特性を生かして、その歴史的、自然的、文化的魅力を体感できるとともに、一望する街並みから平和を実感できる、本市の魅力的な新たな拠点とするため、「比治山公園『平和の丘』構想」に基づき、再整備を行う。</p>

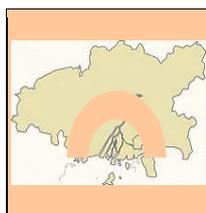


世界遺産「原爆ドーム」を中心に、平和都市を象徴する都市環境づくりを進め、「迎える平和」を一層推進し、世界中から訪れる人々が平和への思いに触れ、核兵器のない平和な世界の実現に向けた原動力を生み出すことのできるエリアを形成する。

(6) 平和都市を象徴する都市環境づくり

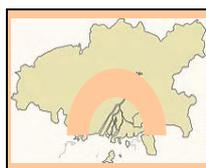
<p>旧広島市民球場跡地の活用 (都市整備局都市機能調整部)</p>	<p>旧広島市民球場跡地を含む中央公園は、平和記念公園などとともに、戦災復興のシンボルとして整備されてきた地である。旧広島市民球場跡地については、こうした経緯を踏まえつつ、都心の新たなにぎわい拠点としての活用を図る。</p>
<p>広島大学旧理学部1号館の保存・活用 (都市整備局都市機能調整部)</p>	<p>広島大学旧理学部1号館は、かつての学都広島を象徴であるとともに被爆建物でもあり、「知の拠点」にふさわしい保存・活用を図る。</p>
<p>平和記念公園の環境改善 (都市整備局公園整備課)</p>	<p>平和記念公園内のトイレを、ユニバーサルデザインに対応し、清潔感のあるトイレに建替え、平和への思いを持って訪れる世界中の人々が快適に利用できるよう改善する。</p>
<p>基町プロジェクト (中区地域起こし推進課)</p>	<p>広島市立大学と中区役所が連携し、創造的な文化芸術活動を通じて、基町住宅地区の魅力づくりや活性化を促進する。</p>

2 デルタ周辺部でのまちづくりの展開



アストラムラインの延伸等によって、都心へのアクセスを容易にするとともに、住宅団地には、子育て世帯等の若年世帯の入居を促し、高齢者世帯と子育て世帯がバランス良く居住するようにすることで、地域の活力を維持しながら、心通い合う地域コミュニティを再生し、地域の課題を住民同士が支え合いながら、その解決に取り組むことのできるまちを目指す。

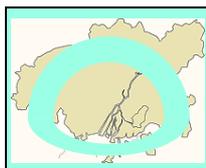
(1) 心通い合う地域コミュニティの再生	
住宅団地の活性化	人口減少や高齢化の一斉の進行により、生活利便性の低下やコミュニティの希薄化など様々な問題が現れている住宅団地について、30年後においても住み続けられるまちづくり、多様な世代が集うコミュニティの再生を目指し、活性化対策を講じる。
“まるごと元気”住宅団地活性化補助事業 (企画総務局政策企画課)	団地住民等が主体的に行う「住宅団地活性化プラン」の作成や空き家等を活用した住民間の交流拠点づくりなどの取組を支援する。
住宅団地における住替え促進モデル事業 (都市整備局住宅政策課)	住宅団地の自治組織が、空き家を活用して子育て世帯の住替えを促進するための取組を行う場合に、空き家のリフォーム費や入居者の家賃の一部を補助する。
老朽空き家対策事業 (都市整備局建築指導課)	市民の生活環境への悪影響を防止し、安全・安心なまちづくりを推進するため、老朽空き家の実態を把握し、所有者に対する適正管理の指導や除却支援等の検討を行う。
三世同居・近居支援事業 (企画総務局政策企画課)	子育てや生活支援・見守りなど親子間の支え合いの促進、地域コミュニティの次世代の担い手の確保を図るため、子育て世帯の親世帯の近くへの住替え（同居を含む。）を支援する。



エリア内の各地域では、固有の歴史や伝統、文化など、地域の魅力を生かした特色あるまちづくりを進める。特に、西風新都は、幹線道路のネットワーク化や、JR山陽本線とアストラムラインとの接続により、「住む、働く、学ぶ、憩う、護る」という複合機能が集積した広域的な拠点とする。

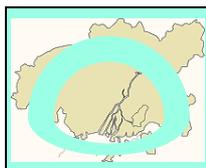
(2) 地域の魅力を生かした特色あるまちづくり	
西風新都の都市づくりの推進 (都市整備局西風新都整備部)	西風新都において、「西風新都内の循環」を生み出す環状線を整備し、また、交通のスマート化や平地部のまちづくりを推進し、市民が生き生きと暮らし、働き、集うような活力にあふれる拠点地区を形成する。
安佐動物公園の活性化 (都市整備局緑政課)	平和で豊かな社会の存続に貢献することを運営の理念とする安佐動物公園が果たしてきた社会的意義を継承しながら、幅広い層に受け入れられる観光資源としての新たな魅力の創出に取り組む。
植物公園の活性化 (都市整備局緑政課)	自然観察の機会を提供し、植物に関する知識の普及と自然保護の推進を図るといふ植物公園が果たしてきた社会的意義を継承しながら、幅広い層に受け入れられる観光資源としての新たな魅力の創出に取り組む。

3 中山間地・島しょ部でのまちづくりの展開



豊かな自然、歴史や伝統を引き継ぎ、人々にやすらぎと心の豊かさを与えるエリアであり続けるためには、地域社会の担い手が不可欠であることから、地元中小企業の振興や、農林水産業の支援など、雇用の維持・創出や地域産業の活性化を図る。

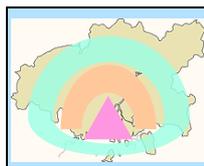
(1) 雇用の維持・創出と地域産業の活性化	
中山間地・島しょ部における中小企業の活性化支援事業 (経済観光局ものづくり支援課)	中山間地等における中小企業の雇用の維持・創出等を支援し、産業の活性化を図る。
農業継承円滑化支援事業等農業の振興 (経済観光局農政課)	中山間地をはじめとする全市域を対象に農業後継者の経営初期支援を行うとともに、“ひろしまそだち”製品の販路を拡大し、安定的な収入の確保と、地産地消を推進することで、本市農業の振興を図る。



魅力的な地域資源を生かし、地域の活性化を図るとともに、訪れる多くの人々に、従来にも増して潤いと憩いを提供できるエリアを形成する。

(2) 地域資源を生かした地域の活性化	
小学校跡施設を活用した中山間地域の活性化事業 (教育委員会施設課)	小河内小学校跡施設を拠点として、「地域おこし協力隊」を活用した地域づくりを進めることにより、学校統合を契機とした中山間地域における新たな活性化モデルとする。
魅力ある島づくり (企画総務局政策企画課)	似島において、「地域おこし協力隊」を活用し、地元住民や来島者がいつでも気軽に立ち寄ることができる交流・活動拠点の開設・運営などを行うことにより、コミュニティ再生を柱とした活性化を図る。

4 全市域でのまちづくりの展開



アストラムラインの延伸やバスの活性化などにより公共交通体系づくりを推進し、「循環」を基調とした集約型都市構造を実現するとともに、高齢者の地域支え合いや、「協同労働」のモデル事業など、全市域において地域の支え合いを促進する。

(1) 集約型都市構造の実現	
立地適正化計画の策定 (都市整備局都市計画課)	容積率緩和や国の財政支援等の措置が活用可能となる「立地適正化計画」を策定し、住宅や生活サービス施設の適正な立地を促進することで、集約型都市構造の実現を図る。
公共交通体系づくりの推進 (道路交通局都市交通部)	「西風新都・デルタ間の循環」を生み出すアストラムラインの延伸や、「路面電車による循環」を生み出す循環ルートの整備、「バスによる循環」を生み出す路線の再編など、集約型都市構造を実現するための公共交通体系づくりを推進する。
バスの活性化 (道路交通局都市交通部)	デルタ市街地では、都心部のバス路線の適正化とそれに合わせた路線の新設・再編など、デルタ周辺部や中山間地では、生活交通の最良な交通モード（路線バス、乗合タクシー等）の設定など、バス事業者等と一体となってバスの活性化に取り組む。

(2) 地域の支え合いの促進	
高齢者地域支え合いモデル事業 (健康福祉局高齢福祉課)	地域包括支援センターが、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会、町内会・自治会などの様々な活動主体のコーディネーターとなって、高齢者を地域全体で支え合う仕組みを構築するためのモデル事業を実施する。
民生委員・児童委員の活動しやすい仕組みづくり (健康福祉局地域福祉課)	民生委員・児童委員の負担を軽減するとともに、欠員の解消を図るため、活動しやすい仕組みづくりを進める。
「協同労働」モデル事業 (経済観光局雇用推進課)	「協同労働」により地域課題の解決や、生きがいづくり、収入の確保につながる、高齢者の「社会的起業」を促すため、地域人材の発掘・育成、勉強会の開催、事業化の支援などを行う事務所（プラットフォーム）を設置するとともに、個別プロジェクトの立上げを支援する。

